

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

第6回検討会（河川域動植物・生態系）

◎足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 第6回検討会（河川域動植物・生態系）が平成21年1月30日に福井県国際交流会館にて開催されました。

足羽川ダム工事事務所長挨拶



足羽川ダム工事事務所 川崎将生所長の挨拶

出席委員



第6回検討会では、動植物・生態系の各分類群を専門とする7人の委員により、河川域の動物・植物及び生態系についてご検討いただきました。

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 検討会 委員名簿

担当分野	氏 名		現 職 等
哺乳類	西垣 正男	にしがき まさお	福井県自然保護センター 企画主査
鳥 類 (鳥類部会長)	林 武雄	はやし たけお	日本鳥類保護連盟 理事
爬虫類 両生類 陸産貝類	長谷川 巖	はせがわ いわお	福井県両生爬虫類研究会 会長
魚 類 生態系	加藤 文男	かとう ふみお	元仁愛女子短期大学 教授
陸上昆虫類	下野谷 豊一	しものや とよかず	日本鱗翅学会 会員
底生動物	前田 正紀	まえだ まさのり	仁愛女子短期大学 准教授
植 物 生態系	渡辺 定路	わたなべ さだみち	元福井市自然史博物館 館長
付着藻類	安達 誘	あだち さそひ	福井陸水生物研究会 会員

※西垣委員はご欠席。

第6回検討会での審議骨子

I. 事務局からの報告

事務局より以下の事項が報告されました。

- ・ 水環境等の検討結果の概要について
- ・ 河川域に係る動物について
- ・ 河川域に係る植物について
- ・ 生態系について
- ・ 今後の予定

II. 委員からの主な意見

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

指摘内容	事務局回答
・ アジメドジョウの移植にあたっては、移植先に競合する種がないか等、慎重に見極めた上で検討する必要がある。	移植にあたっては、専門家の指導・助言のもと、移植先の攪乱が生じるおそれのない場所が確認された場合に実施するものとする。
・ 試験湛水については、自然に出水が起きる6月などに行うことはできないか。	夏季に貯留すると水質が悪くなることが想定され、その水を放流することで下流河川の生物等への影響も考えられる。総合的に見て影響が小さくなるように時期を設定している。
・ 試験湛水については影響が大きいですが、一時的に影響を受けても、その後、生息環境は回復すると考えられる。	—
・ ダム完成後のダム洪水調節地内について、自然に任せていけば鳥のためにはよいが、施設を作ったりして人が増えると影響があるだろう。	—
・ 付着藻類については、溪流の指標となり、これらの種が生育するよい環境だということを知ってもらうため、広く一般に公開していただきたい。	猛禽類や植物の重要な種等の密猟や盗掘の対象となる可能性のある種の位置情報については、環境影響評価の中では、原則として非公開とする方針である。 一般への周知の方法については、今後検討していく。